

総合診療部を経験して

歯科総合診療部を経験して

歯科総合診療部 研修医 白 柏 麻 里

平成29年3月に日本歯科大学新潟生命歯学部を卒業し、4月から歯科総合診療部Aコースにて研修をさせていただいております。

今回、他大学出身である私が本大学で研修をしようと思った理由や研修生活の毎日について述べさせていただきます。

まず始めに、私が新潟大学での研修を選んだ理由を述べたいと思います。本大学における臨床研修の最大の特徴は、診療参加・実践型で行われているということですが、私はそこに大きな魅力を感じました。研修の一年間で、できるだけ多くの診療に積極的に携わり、早くスキルアップできるようになりたいと思っていたので本大学での研修を選択いたしました。また、生まれ育ったこの新潟の土地で歯科医療に貢献したいという思いも強かったので、迷いはありませんでした。

実際に研修生活が始まると、新しい環境に慣れるまで少し時間がかかったように思います。カルテの入力方法や器具の場所はさることながら、総合病院ならではの広大さに圧倒され、ごく最初の頃は病院内で迷うこともありました。また、学生時代に自ら治療を経験する機会が少なかったため、診療を開始したばかりの頃は不安と緊張感ばかり抱えていました。しかし、指導医の先生をは

じめとする総合診療部にいらっしゃる先生方の存在は大変心強いものでした。指導医の先生とは一対一で患者さんの治療方針・治療計画の立案をすることができ、いつも的確なアドバイスをしていただけるので感謝しています。また、信頼できる研修医の先生とペアを組めたことで日々の診療がスムーズに行えていると思います。

技術的にも知識的にもまだまだ未熟だとは思いますが、歯科医師としての第一歩を踏み出したからには、何事にも全力で取り組んで参ります。一人一人の患者さんに親身になって向き合い、一口腔単位に留まらず、身体的・精神的な面も含めて診療をしていきたいと思っております。患者さんの抱えておられる様々な思いを受け止め、不安を取り除き、心から安心して医療を受けられる場を提供できるような歯科医師になるため、日々精進して参りたいと思います。



専門診療科を経験して

歯学科47期 研修歯科医 中村 彬彦

本大学の研修はA・Bの2コースであり、Aコースの先生は総合診療室での研修を、Bコースの先生は各専門診療科での研修を行います。総合診療室では2人1組になり患者を1年通して診ていきますが、対象疾患は専門診療科とは異なり、歯科全般。身につく力は無限大。その人のやる気と努力とセンスによります。そんな私はBコース。研修先は専門診療科です（半年間）。専門診療科でなにをやるのかというと主にその科名の示す通り。それは義歯であったり矯正であったり外科だったり人それぞれ。私は口腔再建外科に4月から9月まで研修させていただくことになっています。簡単ではありますが、これから私の研修内容と日々の生活とをお話しさせていただきます。

1週間の内容をざっくり言うと、火曜日と金曜日に手術を、それ以外の日に外来診療・小手術を行っています。手術日は手術があれば助手としてチームに加わり、外来日は指導医と共同で診療を行います。診療補助の場合もありますし、実際に処置（抜歯や生検など）を行わせてもらうこともあります。指導医が不在の日や外来予約のないときは新患担当の先生から簡単な症例を回してもらいます。外科と他の専門診療科との差別化を図るならば、外科の特殊性は外来の仕事に加えて病棟業務がある点です。簡単に言うと入院患者がいる、ということ。外来の前、合間、後に病棟処置

を行います。従って私の1日は病棟から始まり、病棟に終わります（私の場合は土日祝日関係なく、必ず一度は患者さんの顔を見てお話するようにしています）。土日祝も病棟に行くなんて多忙で自由に使える時間が少ないのでは、と考える人（主に学部生）がいるかもしれません。労働条件通知書によると、始業は8:30、終業は17:15。つまり17:15過ぎれば遊んでも問題ない、ということになります（契約上では）。週1回以上の筋トレと週2回以上の部活と週1回以上のお楽しみ会をノルマにしている私としては、翌日以降の自分とトレセンの閉館時間と部活の終わる時間と相談し、仕事を切り上げる時間を決めます。遊んだあとは基本的に医局に戻り仕事をします。翌日の仕事に影響が出ない範囲で楽しむのが最大のミッションです。

忘れていましたが、専門診療科を経験して、学部生では学べなかった新しい知識との遭遇により日々、知的好奇心をくすぐられています、と最後にタイトル回収をして終わります。

